中丹プロジェクト21会議
みんなの笑顔プロジェクト

京都府の教育をリードする中丹の教育の創造

みんなの笑顔Ⅲ

～特別支援教育の視点を生かして生徒指導をサポートします～

生徒指導は、すべての子どもに社会的資質や行動力を高めること、また、学校生活を有意義で充実したものにすることを目指して行います。その際、一人一人の子どもの教育的ニーズを把握し、チームで支援を行うという特別支援教育の視点を生かした指導が大変有効です。

「みんなの笑顔Ⅲ(生徒指導)」を「みんなの笑顔(学級経営)」、「みんなの笑顔Ⅱ(授業づくり)」と併せて活用して、個に応じた適切な指導が充実することを願っています。

京都府中丹教育局

見立てる

「見立て」とは、アセスメントとも言われ、対象となる子どもの状況を理解し、どのような指導・支援をするのが望ましいか見通しを持つことです。子どもの実態や特性を的確に“見立てる”ことは生徒指導の基盤です。ここでは、サインに気付き、情報を集めて見立てを行うまでのポイントをまとめています。

Point 1 サインに気付く ～教職員の観察力が鍵～

子どもたちが普段見せない姿を見せるようになったら、それは何らかのサインです。子どものサインを見逃すことなくきちんと受け止めることが必要です。また、他の教員や保護者から指摘されたり相談されたりして気付く場合もあります。様々な活動場面で多くの人の目で見つめることが大切です。

●子どもからの様々なサイン●

目に見えにくい子どもの変化にも気を配ることが大切です。

Point 2 情報を集める ～多面的にとらえる～

子どものサインに気付いたら、その背景にある要因にも目を向けましょう。表面上の問題に対応するだけでは課題の解決にはなりません。様々な情報を収集して、多面的に子どもの実態をとらえることが大切です。

その際、「個人の要因(特性)」と「環境の要因(学校、家庭など)」(右ページに上げた視点)から情報を集めておくことが的確な見立てにつながります。

●多くの人から●

●様々な場面で●

登校時、授業中、昼休み、清掃活動、特別活動、部活動、下校時、学校外の生活など様々な観察できる場面があります。

●様々な方法で●

観察　面接　質問紙　検査　事例研究

※　先入観や思い込みは避けましょう。できるだけ多角的・多面的でかつ客観的な情報を得るように努めます。

※　間違った行動ばかりでなく、正しい行動にも目を向け、できた要因を見付け出すようにします。

Point 3 的確に見立てる ～適切な支援のために～

子どもの行動には、いくつかの要因が絡み合っていることがあります。様々な可能性を考えて、複数の教員で情報を共有し、ケース会議で的確に見立てて個別の指導計画を作成することが大切です。

●個人の要因●

～心理的な要因～

- 失敗経験を積み重ねた（失敗への恐れが強い）。
- 自信が持てない。
- 周囲からどのように見られるかがとても気になる。
- 相談できる人がいない。
- 自己肯定感が低い。

～発達にかかわる要因～

- 特定の部分だけできない。
- ことばの力が未成熟。
  特に内言（心の中の言葉）が未成熟な子どもは自分の行動を制御できにくくなる。
- 発達の段階に差がある。
  （認知面や社会性など）
- 不注意、集中が持続しない。
- 興味・関心の偏りがある。

子どもが見せる様々な姿(例)

- 投げやりな態度
- 無気力、無関心
- 反抗的、批判的な態度
- 過剰な甘え、依存的な態度
- 他人の痛みを想像しにくい
- 触れられることに過敏
- 気持ちが安定しない
- 衝動的言動、暴力 暴言、破壊的行動

●環境の要因●

- 友人関係の歪み
- 落ち着きのない学級
- 集中できない教室環境
- 分かりにくい授業
- 発達の段階に合っていない学習内容
- 大人からの愛情不足
- 生活リズムの乱れ（食事・睡眠・入浴など）
- 家庭内の人間関係が安定していない
- 保護者の仕事形態、転居、転学など
- 虐待（身体的・性的・ネグレクト・心理的）
- 家庭内の独特の価値観

個人の要因と環境の要因の両面から考えていくことが大切です。

特別支援教育の視点から

発達障害のある子どもは、物事の見方、とらえ方、感じ方などに他の子どもとは少し違う特性があります。故意に不適切な行動を取るのではなく自分の気持ちや行動をコントロールしきれずに無意識にとった行動が、結果として問題となる行動につながってしまうことがよくあります。

特性を理解されない子どもは、周囲から誤解を受け、自己肯定感が低下し、二次的な障害につながります。

子どもの変化に気付いたら、時を移さずチームで「見立て」を行い、ニーズに応じた支援を始めることが大切です。適切な対応により、課題克服が図られ二次的な障害も防止することができます。また、支援のプロセスは、ＰＤＣＡのサイクルで行い、終結まで継続させます。（「校内でつながる」P5参照）

かかわる

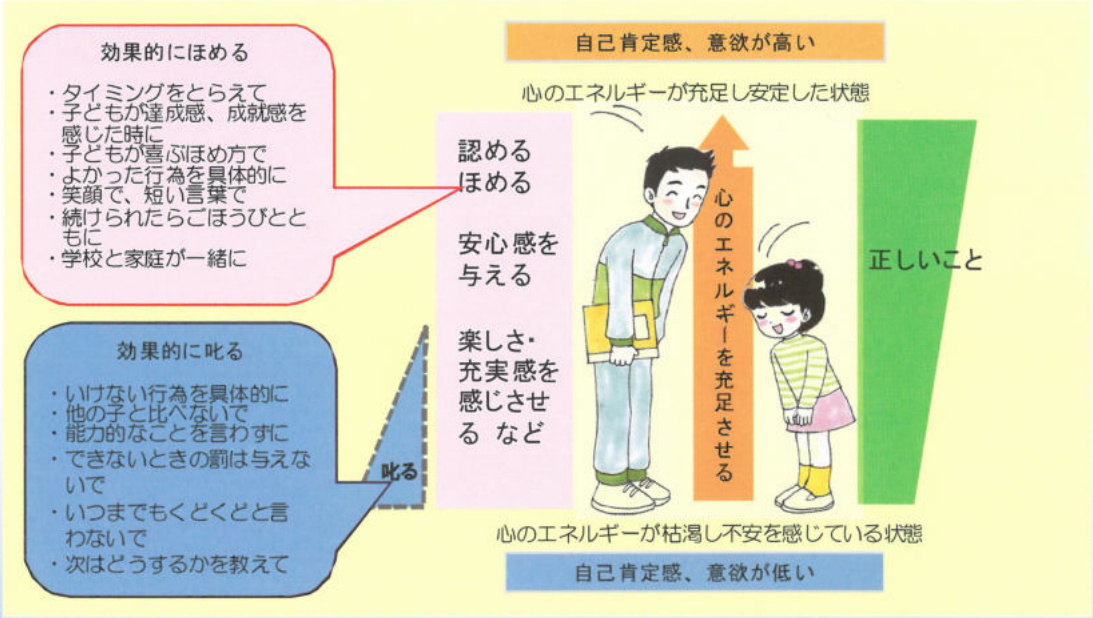
前頁の「見立てる」に基づき、必要に応じて個別の指導計画等を作成し、全教職員の共通理解により組織的に進めることが大切です。そんな時の個人へのかかわり方、集団へのかかわり方のポイントについてまとめています。

Point 1 個人へのかかわり ～自律に向けて～

●心のエネルギーを充足させる●

家庭や学校で「安心して過ごせる」、「自分の気持ちをよく分かってもらえる」、「充実感がある」、「認められる」といった経験が心のエネルギーの源となります。子どもに安心感を与え、楽しさや充実感を感じさせ、よく認めほめることを通して心のエネルギーを充足させることが、指導を根付かせるために必要です。

また、正しい行動が増えると間違った行動は、徐々に減ってきます。



自分で考え行動でき、自分を律することができる段階へ

ほめられたり、叱られたり、ごほうびをもらったりして、がんばることができる段階から

Point 2 集団へのかかわり ～学級経営と授業づくり～

●学級経営と授業づくりは一体のもの●

個別指導を行うためには、それを可能にする集団づくりが大切です。「見立て（児童生徒理解）」を踏まえ、どの子にとっても安心して学べる学級経営と分かる授業づくりの両面から進める事が大切です。

- 落ち着いて過ごせる教室環境づくり
- 見通しが持てる約束づくり
- 認め合える関係づくり

- 学習の基盤づくり
- 集中できる授業を展開する
- 指導技術を高める

●スモールステップでの積み上げ●

学級経営や授業づくりでは、学級のあるべき姿(長期目標)に向かって、達成可能な具体的目標(短期目標)を明確にして指導することが重要です。スモールステップで一つずつ「できる！」ことを増やしていきます。次の段階へと指導が進めにくい場合には、学級のシステムを見直す（フィードバックする）必要があります。集団の実態に応じてできることとできないことを明確にしながら進めます。

Point 3 個人と集団のかかわり ～相互作用を生かす～

●一人一人を大切にする集団づくり●

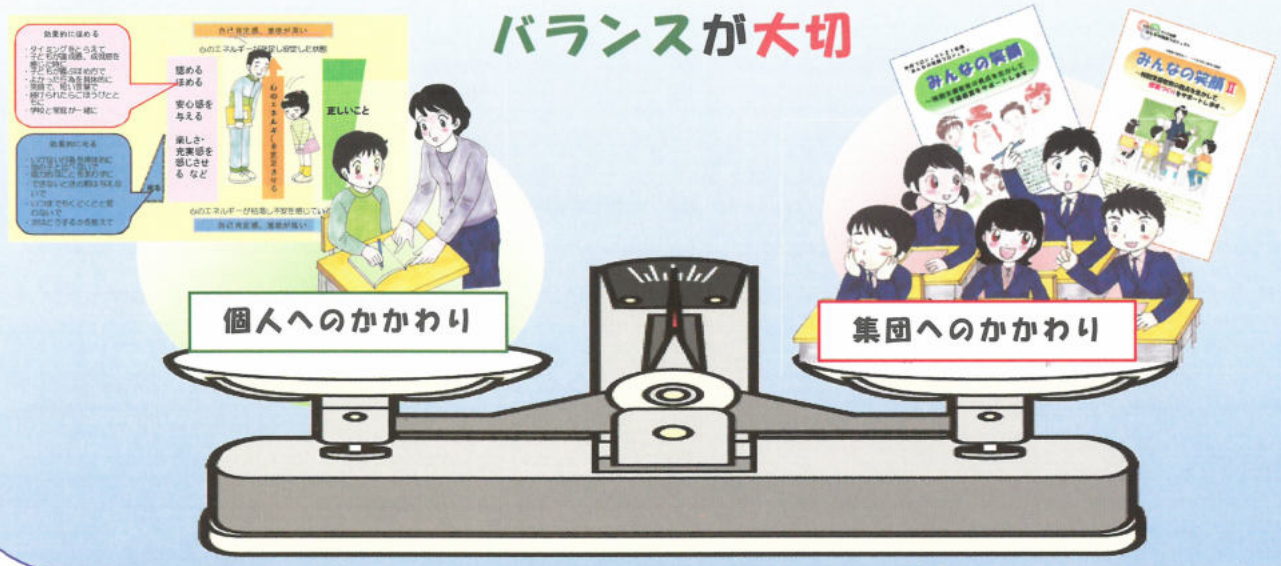
個人と集団は相互に作用し合っています。一人一人の自己肯定感や自信、意欲は、「自分は必要とされている」といった、他者からの賞賛や承認、評価が影響します。一人一人を大切にできる集団の中では、個人にとっても落ち着いた学校生活を送りやすくなります。

上手に声かけができる子どもや共に活動できる子ども、気の合う子どもなど、子ども同士のサポート体制を教員が意図して築き上げていくことが大切です。

だれもが自分の居場所を感じられ、安全で、安心して、学校生活を送ることのできる集団づくりを目指します。

●個人へのかかわりと集団へのかかわりのバランスが大切●

個人へのかかわりと集団へのかかわりとのバランスのとれた指導をすること、また、その相互作用を生かすことで、子どもたちは成長し、社会で自立するために必要な力を身に付けます。集団に支えられて個人が育ち、個人の成長が集団を発展させます。



特別支援教育の視点から

発達障害のある子どもの中には、正しい行動を生活の中で自然に身に付けることができず、間違った行動をしてしまう子どももいます。子どもの特性に応じた指導としては、間違いに気付かせるだけでなく、正しい行動を具体的に、丁寧に教えていくことが必要です。

適切な行動を導く指導

子どもが確実に実行できる課題を与え、正しい行動ができたら、認め、ほめることを繰り返すことにより、正しい行動が増え、自己肯定感、自信、意欲が高まります。

その他の指導方法

子どもの中には、教員の指示や注意などを聞いても理解しにくい子どもがいます。そのような場合は、右のような方法もあります。

- ソーシャルスキルトレーニング
  ロールプレイなどを通してスキルを習得していく方法
- ソーシャルストーリーズ
  適切な行動の仕方を文章で示し、一緒に読んで確認していく方法
- コミック会話
  漫画の吹き出しの中に適切な言葉を入れて、文字や絵を通して理解していく方法

つながる

複雑化、多様化する子どもの課題を解決するためには、チームによる支援や保護者・専門機関とつながることが大切です。つながり方のポイントをまとめています。

Point 1 校内でつながる ～チームによる指導・支援～

●サインに気付いたら、相談を！●

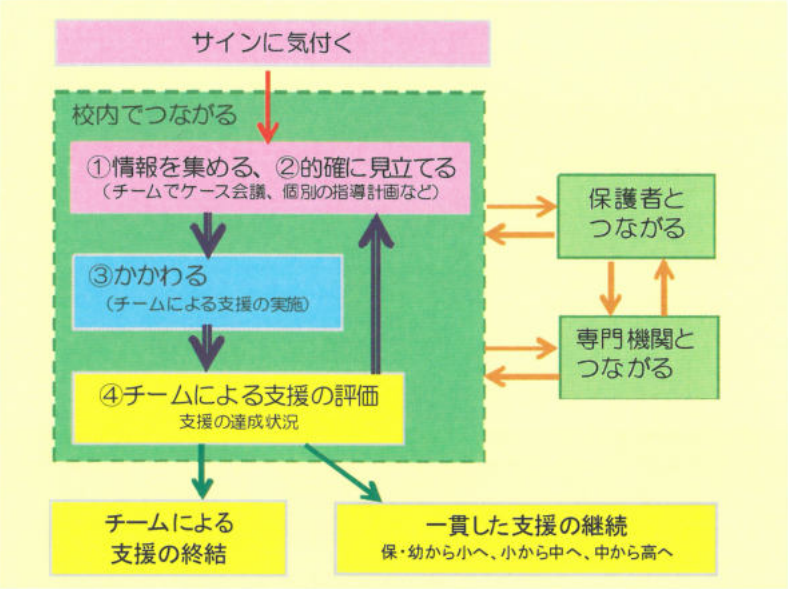
子どもの変化に気付いたら、多くの人と情報交換してみることが大切です。事態を悪化させないためには、学級担任だけで対応できるか、学年団だけで対応できるかなどについて、複数の教員で判断する必要があります。

●チームによる支援●

チームによる支援が必要と判断した場合は、ケース会議を開いて、見立て(アセスメント)や解決のための指導計画を検討します。

また、チームによる支援を行う場合には、教員、保護者、教育委員会、関係機関や地域との連絡調整役(コーディネーター役)が必要です。

支援のプロセスは、①「情報を集める」、②「的確に見立てる」、③「かかわる」、そして④「チームによる支援の評価」を支援の終結に至るまで繰り返します。



Point 2 保護者とつながる ～保護者と共に考える～

●保護者とつながる心構え●

保護者の気持ちや願いなどを共感的に受け止め、子どもの具体的な様子から課題を共有し、一緒に子どもの成長を支援するという姿勢が大切です。

保護者が相談する気持ちが持てるかどうかは、信頼関係があるかどうかです。日頃からつながり、お互いに話しやすい関係をつくりましょう。

●保護者とつながる方法●

- 連絡帳で・・・学校の様子、家庭の様子を互いに連絡し合います。
- 学級通信で・・よい点や向上した点を中心に載せます。
- 授業参観で・・事前に授業の目当てや学習内容を知らせます。
- 懇談会で・・・事前に話し合う内容を知らせ、意見をまとめておきます。
- 家庭訪問で・・計画的に実施する家庭訪問は、子育てについて話し合う良い機会です。
- 電話連絡で・・ほめるべきことを中心にします。

学校からの電話は、一般的に好意的に受け止められません。可能な限り会って話しましょう。

●保護者面接のポイント●

- 服装と言葉遣いへの配慮が必要です。
- プラスの情報を具体的な話で伝えます。
- まずは来校していただいた労をねぎらう言葉をかけます。
- 保護者の話に耳を傾けます。
- 学校がしていこうと考えていることに、家庭への協力の依頼を加えるようにします。
- 長くても1時間から2時間の範囲内にします。
- 最後は玄関まで見送りましょう。

Point 3 専門機関とつながる ～より専門的な立場から～

専門機関は、学校への相談だけではなく、子ども・保護者への直接的な相談・指導・治療で協力を得ることができます。子どもの問題解決に向けて早期から専門機関と協力し相互支援が必要なケースもあります。より専門的な立場からの支援の必要性を感じたら、学校内のケース会議を経て、専門機関へ相談しましょう。

●教育関係の例●

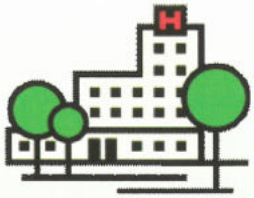
どこに相談すればよいか迷った時、見立てや指導に係る専門的なアドバイスがほしい時の一番身近な相談機関です。気軽に相談してみましょう。

綾部市教育委員会学校教育課
福知山市教育委員会学校教育課
舞鶴市教育委員会学校教育課
各市教育支援センター(適応指導教室)
（やすらぎルーム、けやき広場、明日葉）
中丹支援学校中丹教育支援センター
舞鶴支援学校トータルサポートセンター
通級指導教室
（綾部小・惇明小・昭和小・明倫小・倉梯小・綾部中・南陵中・白糸中）
府総合教育センタートータルアドバイスセンター

●医療関係の例●

発達障害や神経症の診断、投薬、専門的治療が必要ではないかと思われた場合、相談してみましょう。しかし、保護者との丁寧な相談を積み重ね、課題を十分共有してから医療との相談を勧めましょう。

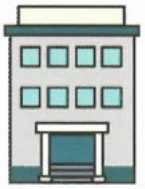
舞鶴医療センター
舞鶴こども療育センター
綾部協立病院
綾部市立病院
福知山市民病院　等



●保健・福祉関係の例●

子どもの発達課題についての相談はもとより、本人の生活の基盤である家庭環境、家族のことについて相談ができます。また、福祉サービス（手当や手帳の発行）等の相談にも対応してもらえます。

家庭児童相談室(綾部市民生児童課)
家庭児童相談室（福知山市子育て支援課）
こども総合相談センター(舞鶴市子ども支援課)
各市福祉事務所
民生・児童委員、主任児童委員
各市保健センター
福知山児童相談所
中丹東保健所、中丹西保健所
京都府発達障害者支援センターはばたき
発達障害者中丹圏域支援センター「青空」
初期型ひきこもりに関する訪問支援「チーム絆」
綾部若者サポートステーション
京都府認定フリースクール「聖母の小さな学校」
舞鶴こども発達支援施設さくらんぼ園
福知山市障がい児・者地域・家庭相談支援センター「てくてく」(社会福祉法人福知山学園内)
中丹こども家庭センター(社会福祉法人舞鶴学園内)



●その他●

その他にも学校からの相談を受け、アドバイスを受けたり、実際に支援の協力を得られる専門機関があります。

少年サポートセンター（福知山警察署内）、綾部警察署、舞鶴警察署

特別支援教育の視点から

学校には、単に学校教育の場面だけでなく、保護者、地域と協働し、専門機関なども含めた社会総がかりの取組をリードしていくことが求められています。

校内でつながり、保護者や専門機関とつながり周囲の人々が連携して支えることにより、子どもたちは、周囲からの愛情や信頼、期待などに「包み込まれているという感覚」を実感し、安心や自信、誇りや責任感を高め、意欲を引き出します。すべての子どもが「包み込まれているという感覚」を実感できるようにしていくことが、教育にかかわる者の責務の一つです。

生徒指導について振り返ってみましょう。

実践している・・・◎　　意識している・・・○　　意識していなかった・・・△

「見立てる」チェック項目	1学期	2学期	3学期
・子どものサインに気付く			
・様々な視点から情報の収集			
・子どもの特性の理解			
・子どもの人間関係の把握			
・子どもの家庭環境の把握			

「かかわる」チェック項目	1学期	2学期	3学期
・心のエネルギーを充足させるかかわり			
・学級経営の充実と分かる授業づくり			
・スモールステップとフィードバックでの丁寧な指導			
・一人一人を大切にした集団づくり			
・個人と集団の相互作用を考えてバランスを考慮した指導			

「つながる」チェック項目	1学期	2学期	3学期
・子どものサインに気付いたら、まずは相談			
・チームで対応し、PDCAのサイクルによる支援			
・普段からの保護者とのコミュニケーション			
・保護者には、マイナスの情報だけでなく、プラスの情報も提供			
・様々な専門機関の支援内容の理解			

★生徒指導の役に立つ文献★

「生徒指導提要」
（文部科学省）
生徒指導の理論組織・考え方や実際の指導方法等についてまとめられた、生徒指導に関する教職員向けの基本書です。

「生徒指導リーフ」シリーズ
（国立教育政策研究所
生徒指導研究センター）
みんなが理解しているようでいながら、実は十分に説明されてこなかった事柄など、解説や提案を行う新しい形の生徒指導資料です。

「ほめかた絵本」
（中丹広域振興局健康福祉部）
絵本を通じて、よくあるお困り行動の対応方法や、ほめかたテクニック、親子の関わり方が分かります。
ペアレント・トレーニングのテキストブックです。

※　「みんなの笑顔Ⅲ」の作成にあたって、「生徒指導提要」と「生徒指導リーフ」を引用・参考文献としています。

中丹プロジェクト21会議
みんなの笑顔プロジェクト

【研究員】

綾部市立綾部小学校
塩見　豊
綾部市立中筋小学校
室田　紗矢香
綾部市立綾部中学校
藤井　理香子
福知山市立昭和小学校
奥村　康枝
福知山市立日新中学校
村本　達
福知山市立南陵中学校
西村　竜明
舞鶴市立志楽小学校
森岡　寿美
舞鶴市立明倫小学校
小瀧　哲朗
舞鶴市立城南中学校
衣川　昌宏

中丹教育局管内の先生方へ

日常の様々な学校生活の場面で行われる子どもへの指導・支援を一層充実させ、子どもも先生もみんなが笑顔になれる学校・学級を目指していきましょう。

本冊子をもとに、さらに良いものにしていきたいと思います。皆様の御意見をお待ちしています。

平成24年３月

氏名

「みんなの笑顔」「みんなの笑顔Ⅱ」「みんなの笑顔Ⅲ」は、中丹教育局Webサイトからダウンロードできます。